

進路と学習を考える

前高ジャーナル



発行 群馬県立前橋高等学校

(編集 進路指導部)

〒371-0011 群馬県前橋市下沖町 321-1

TEL: 027-232-1155 FAX: 027-233-1046

Email: maebashi-hs@edu-g.gsn.ed.jp

2025 年度大学入試を振り返って

◆2025 入試トピック◆

○共通志願者数は 7 年ぶり増加も 2 年連続 50 万人を下回る

1. 大学入学共通テスト

令和 7 年 1 月 18 日(土)・19 日(日)の日程で大学入学共通テストが行われた。志願者数は 7 年ぶりに増加(前年比+3257 人)したが、2 年連続で 50 万人を下回っている。現役志願率は 45.5%で、昨年度を 0.3 ポイント上回って過去最高となった。

近年の現役中心の入試という流れが継続している。また今回の入試から共通テスト科目に「情報」が加わり、従来の 5 教科 900 点満点から 6 教科 1000 点満点となったが、全体の得点率は微増した(【表 1】)。科目別では、国語の平均点が前年度+10.2 点と最もアップし、6 年ぶりに 120 点台となる一方、理科科目は軒並み平均点がダウンした(【表 2】)。前高生の受験会場は昨年に引き続き高崎健康福祉大学だった。274 名が受験し前高生の全体の得点率もアップした。(【表 1】)

【表 1】共通テスト得点率

年度	全国*		前高	
	文系	理系	文系	理系
2021	61%	64%	75%	74%
2022	56%	57%	68%	68%
2023	59%	61%	70%	72%
2024	60%	62%	72%	72%
2025	62%	63%	73%	74%

*2024 年以前は 5 教科 900 点、2025 年は 6 教科 1000 点満点で換算

*ベネッセ・駿台による平均点推測値から算出

【表 2】主要科目の平均点<全国>

年度	2024	2025	差
国語	116.5	126.7	10.2
旧世界史 B	60.3	68.2	7.9
歴総・世探	-	66.1	-
旧日本史 B	56.3	68.3	12.0
歴総・日探	-	57.0	-
旧地理 B	65.7	61.4	-4.3
地総・地探	-	57.5	-
数学Ⅰ A	51.4	53.5	2.1
数学Ⅱ B C	57.7	51.6	-6.1
物理	63.0	59.0	-4.0
化学	54.8	45.3	-9.5
生物	54.8	52.2	-2.6
英語(リーディング)	51.5	57.7	6.2
英語(リスニング)	67.2	61.3	-5.9

大学入試センター発表資料による

*2024 の数学は旧Ⅰ A・旧Ⅱ B の数値

2. 国公立大学二次試験

国公立大学の志願者は前年並みだった。(【表 3】) 難関国立 10 大学の全体の志願者数は微減であった。特に東京大は全科類で志願者減となったが、これは今年度全ての科類で第 1 段階選抜基準が変更され、いわゆる足切

【表 3】国公立大学志願状況(独自日程は除く)<全国>

設置	2024 年度			2025 年度			志願者 前年比
	募集人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者数	倍率	
国立	76,339	299,715	3.9	75,754	299,739	4.0	24
公立	22,539	123,545	5.5	22,482	128,762	5.7	5.217
計	98,878	423,238	4.3	98,236	428,501	4.4	5.263

駿台資料による

りラインが厳しくなったことに対する警戒感とみられる。一方で東北大は前年度に引き続き志願者増となり、人気が続いている。また今回の入試から法学部の後期日程を廃止した京都大も文系を中心に人気が高く、4 年連続で志願者増となった。

次に前高生の国公立大学合格状況と難関国立 10 大学合格状況についてまとめた(【表 4・5】)。現役国公立大合格者数は 157 名だった。特に難関国立 10 大学で健闘している。卒業生総数に対する私立大学出願数は 1 人約 5.4 で昨年より 0.6 上昇したが、押さえとなる私大をしつかりと受けつつ、第一志望の国公立に挑戦した生徒が多かったことがうかがえる。丁寧な面談や各種の発行物、学年集会などを通して高い目標を持つ姿勢を保たせた学年の指導が功を奏したと思われる。また、国公立大医学部医学科現役合格は学校推薦型選抜を含め 13 名だった。既卒生も東大 1 名、国公立大医学科 8 名合格など健闘した。

【表 4】国公立大学合格状況<前高>

設置	現浪	2021	2022	2023	2024	2025
国立	現	143	165	127	134	141
	浪	33	32	34	35	30
公立	現	13	18	11	16	16
	浪	3	4	3	5	0
計	現	156	183	138	150	157
	浪	36	36	37	40	30

令和 7 年 4 月作成「進路概況」による

【表 5】難関国立 10 大学合格状況

大学	2021	2022	2023	2024	2025
北海道大	6(5)	9(4)	6(2)	10(7)	9(8)
東北大	16(15)	23(22)	13(10)	10(9)	24(21)
東京大	7(4)	11(10)	5(3)	7(6)	6(5)
東京工業大	2(2)	3(3)	1(1)	2(1)	-
東京科学大	-	-	-	-	1(1)
一橋大	1(1)	1(1)	1(1)	3(2)	2(2)
名古屋大	2(1)	3(2)	3(2)	0(0)	2(1)
京都大	7(6)	8(5)	7(7)	4(3)	4(3)
大阪大	2(2)	2(2)	0(0)	4(3)	3(3)
神戸大	-	1(1)	2(1)	1(1)	2(2)
九州大	1(1)	-	1(-)	2(1)	0(0)
計	44(37)	61(50)	39(27)	43(33)	53(46)

令和 7 年 4 月作成「進路概況」による

* 数字は現役+既卒生(現役)。-は出願なし。

3. 私立大学一般入試

私立大学の一般選抜入試(推薦・AO 入試等の特別選抜入試を除く)の延べ志願者数は約 328 万人前後になると予想され、前年度から 7.7%の増加となった。また入試方式では共通テスト利用方式が特に増加しており、難関大志望者を中心に利用が促進されたとみられる。系統別ではスポーツ・健康系が新設学科などの影響で大幅増となる一方、薬学系は 2 年連続志願者減となり、人気が回復していない。

前高の卒業生総数に対する合格者実数の割合は 89%であり高い水準を保っている。

今年 4 月作成の「進路概況」の一部を前高 Web ページに掲載しています。また、6 月発行予定の『進学の手引』資料編に全データを掲載します。

困難の中にユーモアを

令和6年度第3学年主任 塩原 知広

本稿では、今年の春卒業した卒業生たちがどのような学校生活を送り、どんな成果をあげ、学校としてどんなバックアップを行ったか、といったことに焦点を当てながら、3年間の学校生活を振り返っていきたいと思います。読者の皆様に少しでも有益な情報となれば幸いです。

「頑張るヤツがかっこいい」というスローガンを掲げ、令和4年度入学生の前高生活はスタートしました。泥臭く愚直に頑張る者を冷笑せず、それを「かっこいい」とお互いに称えられるような雰囲気づくりを心がけ、学年団は折に触れて、挑戦する姿勢の大切さを生徒たちに呼びかけてきました。入学直後に挫折を味わい、引っ込み思案になってしまう生徒も例年いますが、この学年の生徒たちは素直に我々のメッセージを受け取り、失敗を恐れず、勉強・部活・学校行事のどれをとっても、全力でチャレンジをしてくれたと思います。うまくいかず、空回りをする場面があっても、失敗は笑い飛ばして、ユーモアで乗り切る。それがこの学年の基本姿勢でした。

コロナ禍が収束しつつある中で始まった令和4年度でしたが、最初は何をするにしてもマスク着用、初めて迎えた文化祭も観客数をしぼっての限定開催と、不自由な思いをする場面もありました。しかし、生徒たちはそのような制限付きの環境に腐ることなく、先輩からしっかりと前高スピリットを受け継ぎ、歴史をつなぐ主人公として、多方面でめざましい活躍を見せてくれました。三年次によりやうく三大行事と呼ばれる「蛟龍祭」「優曇華」「定期戦」の全てが制限なく実施できた際には、寝る間を惜しんで準備に励み、学校全体をリードして大奮闘してくれました。特に定期戦に関しては、9年ぶりに高崎高校を破ることができ、本当によくやってくれたと思います。あの時の生徒たちのこぼれんばかりの笑顔は、忘れることができません。



部活動では、二年度の高校総体で山岳部と剣道部が優勝、卓球部と少林寺拳法部は関東大会出場と好成績を残し、続く三年次は山岳部が再び優勝、卓球団体準優勝、バド

ミントン・陸上・軟式野球が関東大会出場など、多岐に渡る活躍を見せてくれました。文化部も囲碁・将棋の全国大会出場やギター・マンドリン部の全国総文第四位入賞、科学・物理部の科学の甲子園全国大会出場など、数え切れないほどの頑張りをを見せてくれました。

勉強面は、はじめから順風満帆であったかといえ決してそんなことはありません。学習時間調査ではスマホ利用時間が長く、学習教科には偏りがあり、その都度スマホとの適切な付き合い方を呼びかけ、苦手科目を避けた先の入試の難しさについて説いてきました。初めての進研模試で顕著になった英語力の弱さを補強するために学年全体で「英語力強化キャンペーン」と銘打って朝の SHR に英文暗唱を行ったこともあれば、成績上位層と下位層の固定化が見られた際に「下剋上キャンペーン」と銘打って、模試の偏差値の「伸び幅」が大きかった生徒を表彰したこともありました。新課程としての初めての入試であり、新たに追加された情報の補習を2・3年次に行ったり、新傾向の問題を予測しながら入試対策を行ったりと、教員としても様々な変化への対応を強いられる一年でした。問題は常に山積みでしたが、学年で相談しながらあの手この手で生徒たちを盛り上げる方策を考え、そのたびに彼らはしっかり乗ってきて、期待を上回る力をつけていってくれた、という印象があります。三年にもなるとさすがにスイッチが切り替わり、部活を最後までやり切ったたくさんの生徒が学校に軸足を置きながら、志望大学合格に向けて全力で勉強に打ち込むようになりました。朝の7時から蛟龍館の自習スペースを利用し、授業だけではなく志望大学の個別添削に打ち込み、集団全体として入試に向けて日々士気が上がっていく様子を肌で感じ取ることができました。特に、自分のスタイルや考え方にこだわりすぎず、アドバイスを素直に聞いて自分の力へと変えていった生徒たちの終盤の追い上げは目覚ましいものがありました。

進路結果は、全員が第一志望合格というわけにはいきませんでした。高い目標を掲げ泥臭く頑張った経験は決して無駄にはならず、今後の彼らの人生を豊かにする土台になると思います。「頑張るヤツがかっこいい」というのは、成果を出したヤツだけがかっこいいということではありません。自分と向き合い、いろいろな場面で愚直に努力を重ねた全ての生徒たちが「かっこいい」と心から思います。卒業生たちには、次のステージに進んでも自分の力を過小評価せず、周りの評価を気にしすぎず、胸を張っていろんなことにチャレンジしてほしいと思います。

最後に、この充実した3年間は、授業や部活動で熱心に指導して下さった先生方、学校の教育方針に理解を示し、協力して下さった保護者の皆様無くしては決してなし得なかったものであると思います。この場を借りて、深く感謝申し上げます。笑いの絶えない日々を、本当にありがとうございました。